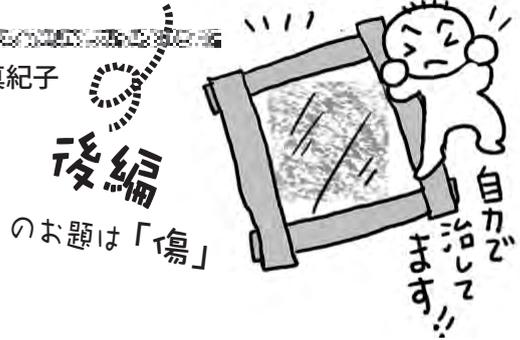


いつのまにか変わってた!

ごみ・環境ビジョン 21 理事 井上 真紀子



「いつのまにか水道水が安全でおいしくなっていて、びっくりした」という前号の話に続き、最近目からウロコが落ちた、もうひとつの話です。

昨年、年明けに、私はごく初期の乳がんの手術を受けました。まずは細胞を採取する検査のために小さな穴をあけ、本番の手術では10センチほど切りましたが、どちらの傷の上にも「透明ドレッシングテープ」というものを貼られました。最近手術を受けて、このテープの恩恵にあずかった方も多いかと思いますが、私は初めての体験でした。

テープの形状は少し厚みのあるセロハンテープという感じ。縫合した上に貼ることもあるし、小さな傷だと縫わずに貼ってしまうことも。

このテープ、何がすごかって…これを貼ったらすぐにお風呂も入れるし、一度貼ったら貼りっぱなしで交換もない。当然それに伴う消毒もない。透明なので傷の様子も一目瞭然。しばらくして自然に剥がれてきたら(期間は個人差がある)、その時には傷も治っている…というわけです。

私も術後2週間後に温泉に入っていたら、ペろーっとテープが剥がれて、傷口はきれいに治っていました。ガーゼの取替えや消毒で痛い思いをすることもなく、早くキレイに治ったことに感動して、このテープの正体を調べました。いろいろと検索した結果「透明ドレッシングテープ」というものだとわかったのです。

すり傷や床ずれ、火傷の治療に使うシート状のものもあって、総じて「創傷被覆材」と呼ばれています。ほとんど市販していないのですが、唯一、一般用として売られているのが、バンドエイドの会社から出ている『傷パワーパッド』という商品です。これ、ちょっと高いけれど優れものです!

包丁の切り傷、靴ずれ、小さな火傷などの上に貼って、手の平で暖めるようにぎゅーっと押さえてつけて密着させ、そのまま数日。忘れた頃に自然とはがれ、傷が治っています。

さて、本題はここから。この傷パワーパッドの注意書きはとっても重要です。「守らないと効果が得られない」ときっぱり書いてある。つまり…

- *キズは水道水で洗いましょう
- *消毒剤やクリームと一緒に使わないでください

水道水で洗う! 消毒はNO! そして乾かしたらダメ! なんです。いつのまにか変わってた!

消毒は「百害あって一利なし」だったんですね。傷口の細胞からは、傷を治そうと浸出液がどんどん出てくるのに、消毒することでがんばっている細胞を死滅させ、治りを遅くしてしまうそう。

さらにガーゼを当てると浸出液を吸い取ってしまい、交換時にはくっついて痛い思いもする。通風性があるから傷が乾いてしまい、これもよくない。

透明ドレッシングテープや傷パワーパッドを使った傷の治療方法は、湿潤環境を提供して創治癒を促進する「湿潤療法」と呼ばれ、要点がわかればポリエチレン製の食品用ラップで代用することもわかりました。うーん、それやってみよう!

そんな時、格好の怪我をしました。膝に当たったアイシング用の保冷材が皮膚に直接触れて、直径5センチくらいの凍傷を負ってしまったのです。

学んだ通りに水道水でよく洗い、ラップを切って覆いました。周りをバンソウコウでぐるりと留めておいたら、4、5日後には治っていました(水洗いとラップ交換は毎日する)。湿潤療法で治すと、カサブタができずに治るのです。

今回はごみとは関係のない話題でしたが「自然(人)のもつ回復力、治癒力を活かす」という点で、ごみ問題とも通じるものがあるように思います。…と強引にまとめてみました f(˘˘)



表紙イラストの猫野べすかさんが装画と挿絵を描いた児童書が11月3日に出版されました。(フォスターさんの郵便配達)(エリアセル・カンシー作) 254ページ 1470円(偕成社)